

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770102741		
法人名	社会福祉法人 守里会		
事業所名	グループホーム 邑		
所在地	香川県高松市前田西町1080-18		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/37/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成29年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり待つ介護:できることを見つけ、できることが増え、できることの達成感や充実感を共有し合える生活を支える」という理念のもと、入居者と一緒に喜びを感じることができるよう介護に取り組んでいます。どんな小さな発見でも職員同士の情報共有を欠かさず、家族との信頼関係の構築にも積極的に努めています。施設からはのどかな田園風景を見渡すことができ、自然の中で季節感を味わうことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は田園地域にあり、その一部の農園で利用者と職員が共に農作物を栽培し、収穫の喜びや季節を感じとっている。職員は、食事や入浴時間などの一日の流れに拘らずに利用者の希望や生活リズムを大切にしながら、事業所の理念「ゆっくり待つ介護」に沿った支援を行っている。また、職員は利用者一人ひとりにあった声かけや対応に努めており、利用者の落ち着いた雰囲気が感じられる。食事の下準備や配膳、食器洗い、洗濯物をたたむ等、利用者の得意とする分野や残された機能を上手に活かし、利用者の生きがいに繋げている。また、各職員はやりがいをもって生き生きと従事している姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生き、活かし合う」という法人理念のもと、「ゆっくり待つ介護」という施設理念をつくり、地域の中で互いに活かし合っていることを、職員全体で共有しながら、地域交流を含めた実践を行っている。	法人の理念を受けて事業所独自の理念を作成している。各職員は目標を掲げ、毎月のカンファレンス時に理念に沿った支援ができているかを確認し合い、理念を大切にしたいケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には、お互いにあいさつを交わしたり、野菜やお花をいただいたり、普段の生活の中で自然と交流が生まれている。	自治会に加入はしていないが、年2回の自治会の会合や用水路の清掃事業には職員と利用者が参加している。散歩や農作業などに近隣者と挨拶を交わしたり、野菜や花の差し入れもある。事業所主催のそうめん流しに地域の方を招くなど地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、法人で地域福祉講演会を主催し、「わたしの町はみんなが家族」というテーマのもと、講演会や分科会の中で、認知症に関するあらゆる問題を、地域住民をはじめとする様々な立場の参加者と共に考える機会をつくっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催し、施設での取り組みや現状報告を話し合ったり、出席者からの質問や意見交換などで得られた情報を、現場に反映させるよう努めている。	ここ最近では、運営推進会議の参加メンバーが少ない状況であるが、事業所の状況や運営について意見交換を行い、運営に反映している。	運営推進会議の委員の見直しと事業所や参加者から提案された課題の検討を行い、地域に開かれたサービス向上に繋がる会議になることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで、事業所の現状報告や取り組みを伝えるとともに、普段から連絡を取り助言をいただいている。	運営推進会議で行政側の情報を共有している。必要に応じて、関係部署に報告や相談、助言を得るなど連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内において勉強会を開き、身体拘束についての知識と理解を深め、ケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関を開放しており、入居者が自由に出入りできる環境になっている。	毎月1回の勉強会で、課題や問題点を職員間で検討し、共有認識を持って身体拘束をしないケアに努めている。例えば、具体的な事例を通して利用者を尊重した解決策であるかを検討し、確認しながら知識を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において勉強会を開き、高齢者虐待についての知識と理解を深め、ケアに取り組んでいる。また、家族との良好な関係を保つことで、普段から注意を払い早期発見や防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やリーダーは法人内外の研修や勉強会に参加することで知識と理解を深め、そこで得た情報を、施設内の会議などにおいて他の職員にも伝え、話し合う機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結などでは、十分な時間を持ち、利用者や家族に理解してもらえよう努めている。また、こちらが一方向的に説明するのではなく、疑問や不安に感じていることを尋ね、安心して利用できるよう注意を払っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などに出席してもらうことで、家族からの意見や要望を確認する機会を持っている。また、普段から家族との連絡を密にすることで、管理者や職員が要望にも早急に対応できるよう努めている。	利用者や家族に面会時や運営推進会議などで意見を聞いたり、意見箱を設置するなど意見を表出しやすい機会を設けている。提案された事項を運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営会議に出席しており、他施設の管理者など出席者の意見・提案や助言などを聞く機会を持っている。また、施設内では会議を開いて、職員の意見を聞き、それらを反映させている。	日常業務中や運営会議などで意見や要望を言いやすい職場環境であり、職員の意見を反映した取組みを行っている。職員の提案により、法人内の連携が密になったり、業務改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの力や勤務状況などを把握することで、職員全体の現場の環境づくりに努めている。また、能力や適性に応じて役割を持ってもらい、職員の向上心アップにもつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会に参加することで、知識の習得や介護技術の向上を図っている。また、資格取得のための研修や勉強会への参加も働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やイベント等への参加によって、同業者や他施設の職員との交流や情報交換の場となっている。そして、知り得た知識や情報をケアに活かすことで、サービスの向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、要望や不安に感じていることを聞き、説明することで、安心して利用できるよう信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、家族からの要望や不安に感じていることなどを確認し、信頼関係が構築・継続できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント聴取をしっかりと行い、生活歴や家族との関係などを十分把握したうえで、必要としているサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は様々な経験を積んだ人生の先輩として入居者と接しており、料理・裁縫・掃除・洗濯などの暮らしの知恵を教わったり助言を得たりして、良好な関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の中で、困りごとや健康面に関する問題、また嬉しい出来事など、小さなことでも家族と情報を共有することで、お互いの信頼を深め入居者を一緒に支援できる関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人を含む親しい方々との面会や、馴染みの場所へ出かけたりすることで、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。	出来る限り、家族には定期受診に同伴して頂いたり、面会者に継続的な面会の声かけを行っている。また、喫茶店や墓参り、近くのスーパーマーケット、利用者が住んでいた近所へのドライブなどに出かけ、馴染みの人や場所との関係性が継続できるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って入居者同士の交流を深めたり、入居者同士で積極的に声をかけ合っているため、お互いに支え合い、気遣える関係ができています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、他のサービスを利用されている方などの近況・経過を確認したり、必要に応じて相談を受けるなど、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活を考慮しながら、入居者一人ひとりの思いを汲み取り、ケアに活かしている。また、困難な場合は家族にも協力を得て、できる限り本人の望む生活が送れるよう支援に努めている。	入居時のアセスメントだけでなく、普段から利用者や家族から思いや意向を把握するように努めている。意思表示が困難な場合は、ゆっくりと介護する中で、嗜好品を食べている時など、利用者の状態が安定した時や雰囲気から意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に確認しながら、生活歴や生活環境を把握できている。それを継続することでケアに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの身体の状態や残存機能を把握し、職員全員で情報を共有することで、自立支援に基づいたチームケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてカンファレンスを開き、課題やケアについて話し合っている。そこで出た意見を介護計画に反映させることで、現状に即した介護計画が作成できている。	6か月ごとの定期的に加え、利用者の状態に応じて臨機応変に見直しを行っている。作成時には、事前に家族の意見や要望を聞き、夜勤以外の全職員が参加し、職員の意見を反映しながら計画を作成している。計画については、家族には来所時等を利用してケアマネジャーから説明を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者ごとに介護記録をつけて職員間で情報共有している。日々の変化や気づいたことを共有・理解し、介護計画の見直しに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している小規模多機能型居宅介護事業所や法人内の事業所と協力・連携し、本人や家族の状況に応じた柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買い物に出かけたり、馴染みの美容室で散髪したりと地域資源を有効に利用し、入居者一人ひとりの生活が豊かになるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に既往歴を含む本人の状態やかかりつけ医などを家族に確認し、受診について話し合っている。受診の付き添いなど家族と協力し、適切な医療を受けられるよう対応している。	利用者や家族が希望する医療機関を尊重し、家族や職員の同伴のもと受診支援を行っている。受診結果については口頭で説明し、家族と事業所が相互に情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを行って記録するとともに、日々の変化や状態など施設の看護職員に報告・相談している。そして、看護職員の助言をもとに、受診やケアを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、服薬状況や施設での様子などを伝え、適切な治療を受けられるように努めている。入院中の本人の様子や状態の変化を把握するなど、医療機関との連携を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いの機会を持ち、看取りについて本人や家族の希望を確認している。状態の変化が見られる場合には、その都度家族と話し合いを行い、施設で対応できること・できないことを明確にしながチームで方向性を検討し、支援を行っている。	入居時に、終末期の資料を基に利用者や家族に説明を行っている。利用者の状態の変化により、家族や主治医、管理者、ケアマネージャー、計画作成者と連携を図りながら方針を決め、終末期に向けた取り組みを行っている。看取り事例もあるが、同一法人内の特別養護老人ホームの移行も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、新人職員を対象とした応急救護(AEDを含む)の研修を法人内で開催している。それ以外にも、各施設で定期的に勉強会を開き、緊急時の対応の方法を学ぶ機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、地域の消防署に協力してもらい防火訓練を実施している。災害時に速やかに避難できるよう訓練を行い、マニュアルを作成して、全職員が避難方法を十分把握できるよう努めている。	緊急連絡網や避難経路、防災訓練のマニュアル等に基づき、夜間も想定した防災訓練を年2回実施している。施設の耐震診断はクリアされており、備蓄品も整備されている。立地条件から風水害より、地震への対応が重要との助言をもらっている。	全職員が防災訓練の結果や課題を実現可能なものに活かすとともに、地域組織や関係機関と連携を図り、協力体制を構築されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格やこれまでの暮らしを理解したうえで、その方に合った声かけや対応に努めている。また、入居者同士での会話でも、トラブルにならないようプライバシーに配慮しながら、職員が見守りを行っている。	利用者のプライバシーを尊重した言葉かけや支援を行っており、気になる言葉や態度に関しては管理者や職員間で話し合い資質向上に努めている。利用者同士の会話や態度にも相互の人格を尊重した見守りや支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴・買い物など日常生活における小さなことでも本人の希望を確認し、自己決定できるよう努めている。また、自分の意思を伝えることが困難な方にも、できるだけ自己選択できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに合わせて、毎日の過ごし方を考えている。職員本位にならないよう入居者のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入居者と一緒に洋服を選び、その人らしさが表現できるよう努めている。また、普段から身だしなみには注意し、気持ちよく、清潔でいられるよう心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの能力や好きなこと・得意なことなどを考慮しながら食事の準備や後片付けを行っている。そして、職員も入居者に教わりながら、食事を一緒に楽しんでいる。	同建物内の栄養士の助言を得ながら、利用者の希望を取り入れた献立を作成している。食材は利用者と一緒に買い出しに行き、料理の下準備や配膳、食器洗いの後片付け等、利用者は得意とすることに積極的に参加している。行事食や外食の機会もある。職員は食事行動を優しく見守っている姿勢が感じられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事量を考慮しながらメニューを決定し、毎日の食事・水分摂取量を記録している。入居者の状態に合わせた食事形態で提供し、水分補給にも努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自菌・義歯の方それぞれの状態や能力に合わせて口腔ケアを行っている。口腔内の状態が食事摂取と密接につながっているため、常に状態の把握に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるよう排泄介助を行っている。入居者それぞれの習慣や能力に応じて、布パンツ・リハビリパンツ・紙おむつ・パットを使用している。	利用者の排泄状況を把握し、利用者の状態に応じてリハビリパンツなどの補助用品を使用しているが、声かけや誘導により排泄の自立支援に努めている。トイレの表示はないが利用者は間違うことなく使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の記録をつけており、職員間での情報共有に努めている。便秘気味の場合でも、薬に頼りすぎることなく、食事内容や水分補給に注意し体を動かす時間をつくるなど、便秘解消に励んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を希望される方を優先しながら、入居者の体調や気分を考慮して入浴介助を行っている。また、入浴に抵抗がある方にも声をかけ、本人が安心して入浴できるよう支援を行っている。	最低週2回の個浴であるが、回数や時間帯、同性介助、入浴剤等は利用者の希望に対応している。入浴拒否者には時間をおいて声かけをするなど利用者の状況に配慮した入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の気分や体調を考慮して、休憩時間を持ってもらうようにしている。夜間にしっかり睡眠時間を確保できるよう、日中の活動量を増やすなど、それぞれのペースに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬についての情報を職員間で共有・理解し、服薬介助を行っている。また、状態の変化を見逃さずに、家族や主治医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意な方、掃除好きな方、読書を楽しまれる方など、一人ひとりの生活歴や得意なことを活かした暮らしの継続と、生活の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物など職員との外出以外にも、家族との外食や買い物などそれぞれの希望にを考慮した支援を行っている。また、法人内の施設の行事に参加するなど施設間交流などを積極的に行っている。	散歩や近くのスーパーマーケットでの買い物、喫茶店、美容院等の日常的な外出支援を行っている。事業所や法人内でのイベント行事に合同で出かける機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は職員が管理しているが、使い道を一緒に考えて買い物などの外出を楽しめるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などの郵便物は本人に手渡したり、介助が必要な方には手紙を一緒に読んだりするなど、その方に合わせた支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やソファの配置をかえて模様替えをしたり、落ち着ける空間づくりに努めている。また、花を生けるなど、季節を感じてもらえるよう配慮している。	市松人形や水仙がシンプルにさりげなく飾られ季節感を醸し出している。共用室から周囲の景色の見晴らしも良く、ソファや畳の間、廊下の片隅などに利用者が落ち着く憩いのスペースがあり、利用者と職員がゆったりと接している様子も見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆と一緒に会話を楽しんだり、ソファで静かに読書したり、利用者がそれぞれのペースでゆったりと過ごせるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人がこれまでに実際使用していたり、家族と一緒に選んだりした家具や小物を置くなど、居心地の良い空間づくりに努めている。	居室は和室と洋室があり希望に応じて選択できる。布団は押入れに収納されており、小ダンスや衣装ケース、写真、小物が自分なりに整理整頓され、快適に過ごせる雰囲気である。居室には名札も目印もないが、利用者は間違えることもなく、不自由なく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの残存機能や理解できることを把握したうえで、安全に生活できるよう職員で協力して環境づくりに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生き、活かし合う」という法人理念のもと、「ゆっくり待つ介護」という施設理念をつくり、地域の中で互いに活かし合っていることを、職員全体で共有しながら、地域交流を含めた実践を行っている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際には、お互いにあいさつを交わしたり、野菜やお花をいただいたり、普段の生活の中で自然と交流が生まれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、法人で地域福祉講演会を主催し、「わたしの町はみんなが家族」というテーマのもと、講演会や分科会の中で、認知症に関するあらゆる問題を、地域住民をはじめとする様々な立場の参加者と共に考える機会をつくっている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催し、施設での取り組みや現状報告を話し合ったり、出席者からの質問や意見交換などで得られた情報を、現場に反映させるよう努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで、事業所の現状報告や取り組みを伝えるとともに、普段から連絡を取り助言をいただいている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内において勉強会を開き、身体拘束についての知識と理解を深め、ケアに取り組んでいる。夜間以外は玄関を開放しており、入居者が自由に出入りできる環境になっている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内において勉強会を開き、高齢者虐待についての知識と理解を深め、ケアに取り組んでいる。また、家族との良好な関係を保つことで、普段から注意を払い早期発見や防止に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者やリーダーは法人内外の研修や勉強会に参加することで知識と理解を深め、そこで得た情報を、施設内の会議などにおいて他の職員にも伝え、話し合う機会を持つようになっている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結などでは、十分な時間を持ち、利用者や家族に理解してもらえるよう努めている。また、こちらが一方向的に説明するのではなく、疑問や不安に感じていることを尋ね、安心して利用できるよう注意を払っている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などに出席してもらうことで、家族からの意見や要望を確認する機会を持っている。また、普段から家族との連絡を密にすることで、管理者や職員が要望にも早急に対応できるよう努めている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は運営会議に出席しており、他施設の管理者など出席者の意見・提案や助言などを聞く機会を持っている。また、施設内では会議を開いて、職員の意見を聞き、それらを反映させている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの力や勤務状況などを把握することで、職員全体の現場の環境づくりに努めている。また、能力や適性に応じて役割を持ってもらい、職員の向上心アップにもつながっている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会に参加することで、知識の習得や介護技術の向上を図っている。また、資格取得のための研修や勉強会への参加も働きかけている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やイベント等への参加によって、同業者や他施設の職員との交流や情報交換の場となっている。そして、知り得た知識や情報をケアに活かすことで、サービスの向上を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、要望や不安に感じていることを聞き、説明することで、安心して利用できるよう信頼関係の構築に努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に、十分な時間を持って話し合いの機会をつくっている。そこで、家族からの要望や不安に感じていることなどを確認し、信頼関係が構築・継続できるよう努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント聴取をしっかりと行い、生活歴や家族との関係などを十分把握したうえで、必要としているサービスを提供するよう努めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は様々な経験を積んだ人生の先輩として入居者と接しており、料理・裁縫・掃除・洗濯などの暮らしの知恵を教わったり助言を得たりして、良好な関係を築けている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活の中で、困りごとや健康面に関する問題、また嬉しい出来事など、小さなことでも家族と情報を共有することで、お互いの信頼を深め入居者を一緒に支援できる関係を築けている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人を含む親しい方々との面会や、馴染みの場所へ出かけたりすることで、これまでの関係が途切れないよう支援を行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って入居者同士の交流を深めたり、入居者同士で積極的に声をかけ合っているため、お互いに支え合い、気遣える関係ができている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、他のサービスを利用されている方などの近況・経過を確認したり、必要に応じて相談を受けるなど、支援に努めている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活を考慮しながら、入居者一人ひとりの思いを汲み取り、ケアに活かしている。また、困難な場合は家族にも協力を得て、できる限り本人の望む生活が送れるよう支援に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に確認しながら、生活歴や生活環境を把握できている。それを継続することでケアに反映できるよう努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの身体の状態や残存機能を把握し、職員全員で情報を共有することで、自立支援に基づいたチームケアを行っている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてカンファレンスを開き、課題やケアについて話し合っている。そこで出た意見を介護計画に反映させることで、現状に即した介護計画が作成できている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、入居者ごとに介護記録をつけて職員間で情報共有している。日々の変化や気づいたことを共有・理解し、介護計画の見直しに役立てている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している小規模多機能型居宅介護事業所や法人内の事業所と協力・連携し、本人や家族の状況に応じた柔軟な支援を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買い物に出かけたり、馴染みの美容室で散髪したりと地域資源を有効に利用し、入居者一人ひとりの生活が豊かになるよう支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に既往歴を含む本人の状態やかかりつけ医などを家族に確認し、受診について話し合っている。受診の付き添いなど家族と協力し、適切な医療が受けられるよう対応している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを行って記録するとともに、日々の変化や状態など施設の看護職員に報告・相談している。そして、看護職員の助言をもとに、受診やケアを行っている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、服薬状況や施設での様子などを伝え、適切な治療が受けられるように努めている。入院中の本人の様子や状態の変化を把握するなど、医療機関との連携を大切にしている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いの機会を持ち、看取りについて本人や家族の希望を確認している。状態の変化が見られる場合には、その都度家族と話し合いを行い、施設で対応できること・できないことを明確にしながらチームで方向性を検討し、支援を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、新人職員を対象とした応急救護(AEDを含む)の研修を法人内で開催している。それ以外にも、各施設で定期的に勉強会を開き、緊急時の対応の方法を学ぶ機会を持っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、地域の消防署に協力してもらい防火訓練を実施している。災害時に速やかに避難できるよう訓練を行い、マニュアルを作成して、全職員が避難方法を十分把握できるよう努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの性格やこれまでの暮らしを理解したうえで、その方に合った声かけや対応に努めている。また、入居者同士での会話でも、トラブルにならないようプライバシーに配慮しながら、職員が見守りを行っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴・買い物など日常生活における小さなことでも本人の希望を確認し、自己決定できるよう努めている。また、自分の意思を伝えることが困難な方にも、できるだけ自己選択できるよう働きかけている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに合わせて、毎日の過ごし方を考えている。職員本位にならないよう入居者のペースを大切にしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、入居者と一緒に洋服を選び、その人らしさが表現できるよう努めている。また、普段から身だしなみには注意し、気持ちよく、清潔でいられるよう心がけている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの能力や好きなこと・得意なことなどを考慮しながら食事の準備や後片付けを行っている。そして、職員も入居者に教わりながら、食事を一緒に楽しんでいく。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや食事量を考慮しながらメニューを決定し、毎日の食事・水分摂取量を記録している。入居者の状態に合わせた食事形態で提供し、水分補給にも努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯・義歯の方それぞれの状態や能力に合わせて口腔ケアを行っている。口腔内の状態が食事摂取と密接につながっているので、常に状態の把握に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できるよう排泄介助を行っている。入居者それぞれの習慣や能力に応じて、布パンツ・リハビリパンツ・紙おむつ・パットを使用している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の記録をつけており、職員間での情報共有に努めている。便秘気味の場合でも、薬に頼りすぎることなく、食事内容や水分補給に注意し体を動かす時間をつくるなど、便秘解消に励んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望される方を優先しながら、入居者の体調や気分を考慮して入浴介助を行っている。また、入浴に抵抗がある方にも声をかけ、本人が安心して入浴できるよう支援を行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の気分や体調を考慮して、休憩時間を持ってもらうようにしている。夜間にしっかり睡眠時間を確保できるよう、日中の活動量を増やすなど、それぞれのペースに合わせて支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬についての情報を職員間で共有・理解し、服薬介助を行っている。また、状態の変化を見逃さずに、家族や主治医との連携を図っている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の得意な方、掃除好きな方、読書を楽しまれる方など、一人ひとりの生活歴や得意なことを活かした暮らしの継続と、生活の質の向上に努めている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や買い物など職員との外出以外にも、家族との外食や買い物などそれぞれの希望にを考慮した支援を行っている。また、法人内の施設の行事に参加するなど施設間交流などを積極的に行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は職員が管理しているが、使い道と一緒に考えて買い物などの外出を楽しめるよう配慮している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙などの郵便物は本人に手渡したり、介助が必要な方には手紙と一緒に読んだりするなど、その方に合わせた支援を行っている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	椅子やソファの配置をかえて模様替えをしたり、落ち着ける空間づくりに努めている。また、花を生けるなど、季節を感じてもらえるよう配慮している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで皆と一緒に会話を楽しんだり、ソファで静かに読書したり、利用者がそれぞれのペースでゆったりと過ごせるよう心がけている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人がこれまでに実際使用していたり、家族と一緒に選んだりした家具や小物を置くなど、居心地の良い空間づくりに努めている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者それぞれの残存機能や理解できることを把握したうえで、安全に生活できるように職員で協力して環境づくりに努めている。